

伊江村立伊江小学校全教室公開校内授業研究会



南の島でまた新たな挑戦が始まった。伊江村立伊江小学校比嘉悟校長が、学び合い支え合う「協働と対話」による授業づくりへと職員と共に新たな灯をともした。右の写真、職員室です「あなた（教師）は、どんな職員室に居心地がいいと考えていますか。」一人残らずすべての子ども達に心地よい教室を準備するのは私たち教職員の使命でもある。子どもは教師の鏡、教室は職員室の鏡である。



職員室での先生方の同僚性の高まりが、教室での子ども達の支え合う姿に映し出される。職員室が辛い学校で居心地のいい教室は成立しにくい。つまり授業改善も教師だけで成立しない。授業改善には子ども達の力が絶対に必要になります。まずは比嘉悟校長の舵取りの基、学校の向かう未来、子ども達が向かう未来に向けて共通理解と共通実践のベクトルをそろえ、教師だけでなく、子ども達も一緒に授業改善に向かうことを大切にしてほしい。

[1年] 素敵な教室、子ども達にとって最高に居心地のいい教室になっているのではないだろうか。「お手がみ」の音読から入り互いの読みを深める。子ども達が淡々と自分のペースで読み入る。



黒板には大型教科書が提示され、子ども達に分かり易く互いの読み（感性）をつなげるアイテムの役割を果たしている（Uデザインの配慮でもある）。書き込まれた子ども達の言葉は、学びの足跡にもなる。左の2枚の写真、まったく自然にペアが向かい合う。日常の授業者の取り組みが伺える。右の写真、授業者がペアに問いやテーマを下ろすと躊躇なく「きき合う」教師が全ての子ども達の声を聴いてあげることが不可能である。話したい事、聴きたいことをペアにあずけ自分の言葉で語らせてあげることが大切である。さらに、教師の低い姿勢を見てほしい。子どもと向かい合うときは、姿勢を低くし子ども達の表情を見ながら聴いてあげることが大切ですね。実に素敵な教師の行為です。



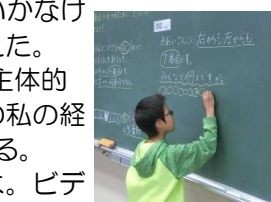
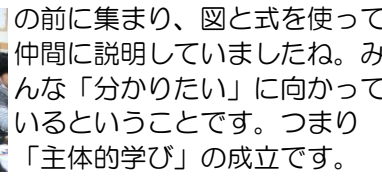
机間巡視の名目で歩く教師のそのほとんどは、子どもの表情や困り感よりノートやワークシートに目をやり、「できている」「できていない」の視点でまさに監視することが目的化した巡視の姿がうかがえる。

Y先生、素敵な授業ありがとうございました。まさに純真無垢な子ども達に私の心も癒されました。

[2年] 変革、改革、イノベーションなど、2050年に向けて社会や政治でも変わっていかねばならないことが、話題やテーマに取り上げられる。教育も同じく変革の時代を迎えた。

[私も変わらなければ] 文科省は新学習指導要領の総則において以下に示す教育内容を主体的・対話的深い学びの具現化を図って実現を目指してくださいとした。でも、これまでの私の経験値にアクティブラーニングはなかった。だから、「私が主体的に学ばなければ」となる。

N先生、写真の子ども達を見てください。みんなで協力して解決に向かっていきますよ。ビデオで確認したように確実に子ども達は対話による解決に向かっていきます。右の写真、男の子が書いた図が、みんなの学びのネタになっていました。何人もの子ども達が黒板の前に集まり、図と式を使って仲間に説明していましたね。みんな「分かりたい」に向かっているということです。つまり「主体的学び」の成立です。



[「きき合う」と「対話」について]

「聴き合う」とは教師のお話を「聞かされる子ども達」の態度や姿ではなく、逆に教師の側の子ども達の話の聞く態度や姿勢と、授業における「分からない」ことを互いに訊き合い、一緒に考えて解明や探究に向かう姿である。「学び合い」と「話し合い」の違い、「対話」と「話し合い」の違い、「発表・報告」と「対話」の違い、ニュアンスがなんとなく違いを感じるのではないのでしょうか。「対話」は自分の考えや思ったこと（意志）を相手に気遣いながら「自分の言葉」で伝え合い交わされる言葉である。さらに「言い合い」との区別が必要ですね。

ついでに「聞く」、「聴く」、「訊く」の違いについても校内研等で確認していただきたい。

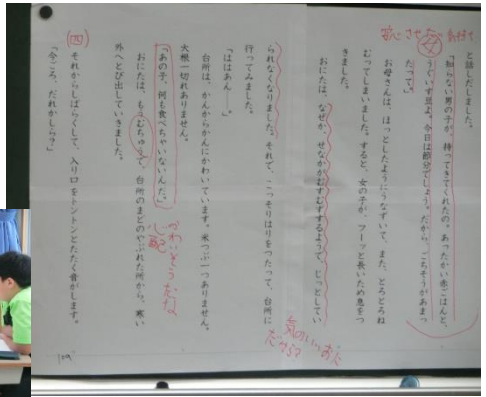
[3年] 定臨の授業者である。



教師の学びって何ですか？

授業者は、大型教科書の前に座って子ども達の声の聴いて、さらに、仲間の問いを仲間へ「つなく」これまでの授業者の経験値にない挑戦である。校内研や先輩教師の模倣からまずやってみることが大切である。

つまり教師も挑戦に向かう姿勢が授業者の「主体性」なのである。文科省は新学習指導要領の移行に向けて「まずは、先生方が主体的に学んでほしい。」という言葉の提言された。本日の授業者の姿がまさに、主体的な挑戦の姿である。



頑張れ未来の教師達、「成功してほしいなんて考えません。ただ、成功に向かって挑戦し続けることが大切なのです。」 写真の子ども達の夢中になって語る姿を自己の支えにしてください。(志)

[4年] 木竜うるし : お話のあらすじを一文でまとめよう 「～が～によって～したお話。」



授業の前半、お話の役割読みを見せてもらった。どのペアでも淡々と読みが進む、すべての仲間がペアで向かい合い「読み合っている」。脚本なので役者が本人になりきることが大切である。右の写真の男の子はすでに「権八」の性格で読んでいた。彼の感性がとらえた権八の人柄が「音読」によって表現されている。

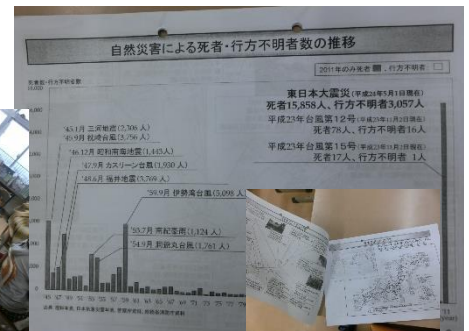


教師の指示もないのに、子ども達各々に自分が感じた役者の人柄をうまく表現しながら読んでいる。「権八と藤六の人柄を、何を根拠にそうとらえたか？」子ども達の音読にも学びのネタがいっぱいである。

[5年] 協力して自然災害を防ぐ(防災)

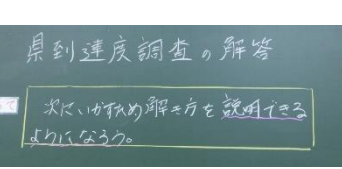
社会科の授業は資料の準備と学習テーマの設定が鍵となる。授業は教師の人柄が見えてくる。この単元に授業者が準備した資料に圧巻である(右写真と黒板掲掲写真)。

授業を大切にしている教師の「一生懸命」さと「丁寧」さが伺え、教師として大人としての在り方を示唆させてくれる。「ほんとにまじめで一生懸命ですね。」さて、社会科における真正な学びってなんでしょう。歴史や事柄を記憶し点数をうまくとる授業がそうでないことは明白である



上の写真、子ども達の思考の広がりや深まりを促すアイテムとして写真と資料は最適である。教科書の資料と、わたされた資料を見比べ、子ども達の、「見方・考え方」が広がりを創る。

[6年] 学校への保護者の「安心」の獲得のために…



子どもの学びの保障をテストの点数でしか評価しない保護者がいることも現実である。確かに指導要領に示された学年の内容をしっかりと身に付けさせることは教師と学校の使命でもある。

しかし、学校の本来の目的や役割ってなんだろう？同じ教師が同じ授業で点数を取れない子どもはダメなんだろうか？・・・テストの点数をもって保護者の安心を獲得することを否定しているのではない。ただ、公的教室で具現化される授業が「それだけ(点数)にこだわる」指導であってはならない。教育基本法、前文と目的をぜひ確認してみたい。

さて、教室の子ども達は…写真のように、グループでみんなが解決に向かい合い対話的学びが成立している。5校時にはモデル授業でも素晴らしい「支え合い」と「対話的学び」を観させてもらいました。担任が日常的に意図的な「対話的学び合い」に取り組んでいて、教師への信頼を獲得してることが、私のモデル授業の成功の鍵でもありました。中学でも期待できると思います。素敵な子ども達でした。感謝！



伊江小の皆さん素敵な授業公開ありがとうございました。すべての先生方の挑戦に向かう姿が確認できて安心しました。一番幸せなのはきっと校長先生ですね。職員室はどうですか？皆が心地よく過ごせていますか？・・・写真、かなりうらやましい給食です。皆さん感謝していますか。



☆ 暗いと不平を言うよりも あなたが進んで 明かりをつけなさい (マザーテレサ)

国頭学びの会ゆい